

第2章

麻薬探知犬の活躍

は にんていしょう
晴れて認定証を得た麻薬探知犬たちの
一日の行動や麻薬摘発の成果^{せいか}などについて
みてみます。

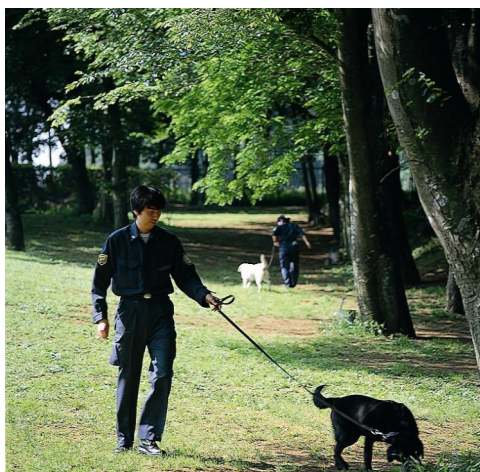
1 一日の行動

起床・朝の散歩・健康チェック・訓練

麻薬探知犬の一日を追ってみましょう。麻薬探知犬はいつもハンドラーとペアを組んで一緒^{いっしょ}です。毎日の行動^{こうどう}を通じてお互いの信頼^{しんらい}関係^{かんけい}を作り上げ、目的を果たしているのです。



(インストラクターとハンドラーとの
朝礼)



(散歩しながら、排便、はいべん健康のチェックを
します)

一日は先ずはインストラクターやハンドラーたちの朝のミーティングから始まります。どこの検査場に、何時にどの犬とどの犬が出向くか確認をします。訓練の時間帯や内容も確認します。

その後ハンドラーとともに朝の散歩をします。これは大変重要なことで、排便はいべんや排尿はいにょうをさせながら、ハンドラーは担当する犬の健康もチェックしています。

いざ出動・実地検査

いよいよ出動です。日本では毎日平均3万人の海外からの入国者(日本に入って来る旅行者など)がいます。ほとんどの人が携帯品けいたいひんを持っています。輸入申告件数ゆにゆうしんこくけんすう(輸入をするために税関の許可きよかを受ける件数)は年間1千万件を越えていますから、いろいろな工夫をして検査の対象たいしょうを絞しぼっていきます。

検査する場所は、空港・海港・輸入する貨物を置く倉庫ほぜいちいき(保税地域といいます)・税関の検査場・ときには船の中、などいろいろです。



(グルーミングで毛並みの
お手入れと健康チェック
です)



「いざ出動！」

麻薬探知犬の指示語

ハンドラーは麻薬探知犬に言葉で指示をします。日本の麻薬探知犬には英語で指示します。最初にアメリカからの指導を受けたからです。

- **ファインドイット(Find it.)…見つけろ**
- **ホップ(Hop.)…あがれ**
- **ステイ(Stay.)…待て**
- **ダウン(Down.) 伏せ**
- **シット(Sit.)…座れ**
- **ノー(No.)…ダメ、やめ**
- **イージー(Easy.)気をつけろ**

※ ハンドラーはこの他**グッドボーイ**(Good boy!)という言葉をよく使います。よくやった、いい子だという褒め言葉です。麻薬探知犬にとっては嬉しい一番良い言葉でしょう。多くの場合この言葉のあとにはダミーと一緒に遊んでくれるからです。



けんさじょう
(検査場へ通じるターンテーブルでの
けいたいひん
携帯品の検査)



（入国検査場です。決して噛み
ついたりしません）



食事・就寝・ホームドクター

麻薬探知犬の食事は1日1回です。必要なカロリーを考えてその分を与えるのです。食事の種類によって、消化しょうかに必要な時間ちがが違うのだそうです。麻薬探知犬訓練センターでは、7～8時間の消化時間の食事を与えており、医学いがくてき的に1日1回で丁度なのです。1日の仕事が終わった後、夕方5時頃に食事です。でも、その時間に検査に行く必要があると2度に分けて食べることもあります。

食事が終わると就寝です。麻薬探知犬訓練センターでは、活躍中の犬や育成中の犬・退役たいえきした犬もいますが、みんな一つ屋根の下で眠ります。

夜中に急に体調たいちょうに異変いへんをおこす犬もいます。そんなときは緊急きんきゅうに手配できるホームドクターをお願いします。だから急病の時も大丈夫のようにしています。また、人間と同じように毎年定期的に健康診断を実施しています。病気になって手術しゅじゅつが必要になったら設備せつびの整った病院で必要な手術を受けます。



(病気になる必要な場合は
施設の整った病院で手術を
受けます)



(沢山の外国郵便物を籠の
外から嗅ぎ分けます)

ハンドラー

ハンドラーは税関の職員です。税関には現在全国でおよそ 9,900 人の職員がいます。税関の職員は、国家公務員試験に合格し、税関に就職し、いろいろな仕事を経験します。海外旅行者^{かいがいりようしや}の携帯品^{けいたいひん}の検査や輸出入貨物を調べて許可^{きよか}したり、また国際展示場の許可^{こくさいてんじじょう}や密輸^{みつゆ}の取締り^{とりしま}などの仕事があります。ハンドラーはその中の一つです。だからハンドラーは一生同じ仕事をするわけではありません。



（航空機で運ばれた貨物の検査）



（海上コンテナで運ばれた貨物の検査）



（麻薬探知犬は、必要なときはどこでも出張します。また、全国から研修のために訓練センターへもきます）



第2章 麻薬探知犬の活躍~~~~~



(今日も一日ご苦労さん)

(おやすみ!)





インタビュー

NHK プロフェッショナル仕事の流儀(2013.4.22 放送)出演

菊地統括監視官^{とうかつかんしかん}

問: 現在の仕事内容について

答: 福岡空港で入国旅客の手荷物やお土産品等の携帯品^{けいたいひん}に対する旅具検査^{りょぐけんさ}を行い、不正薬物(麻薬)や拳銃などが国内に流入しないよう水際で阻止することが主な仕事であります。



問: 現在の仕事と麻薬探知犬とのつながりに
ついて

答: 麻薬探知犬は、旅具検査場内において、旅具検査待ちの入国旅客等に対する検査を行い、不正薬物(麻薬)の匂いを見つけた動きを示した(反応した)時には、ハンドラーから旅具検査官に通報されることとなっており、現在の仕事は麻薬探知犬と非常に密接な繋がりがありません。

麻薬探知犬は、短い時間で沢山の入国旅客等に対して、人間の数万倍といわれる鋭い嗅覚^{きゆうかく}で検査が可能であり、空港における密輸取締りにおいては、とても頼りになる相棒でもあります。

問: 麻薬探知犬業務を担当することになったきっかけ

答: 私は昭和63年(入関3年目21歳の時)にいただいた辞令で初めて麻薬探知犬のハンドラー担当になりました。きっかけはこの一枚の辞令となります。その当時は、犬を扱う麻薬探知犬ハンドラーの仕事は「きつくて、きたなくて、格好悪い」と言われている中、最初にペアを組んだ麻薬探知犬のベラ号(ラブラドル・レトリバー ♀)は、不正薬物(麻薬)を見つけたところか、臆病^{おくびょう}で、大勢の人の前で行う麻薬探知犬のデモンストレーションから逃げ出してしまうような犬でしたので、運が無いと思っていました。

第2章 麻薬探知犬の活躍~~~~~

その後、現場の実働から外れて、ベラ号の能力向上訓練を実施することとなり、ベラ号のペースに合わせて、簡単なことが出来たら褒め、徐々に難易度を高め、ベラ号にとって楽しいと思えるよう工夫しながら訓練を行っていくうちに、どんどんベラ号の能力が向上した後、再びベラ号と共に実働現場復帰し、社会悪物品である大麻草を摘発することができました。

この時に、はじめてベラ号が「臆病で何も出来ない犬」ではなく、それまでの自分の接し方や訓練方法が間違っていて、出来ないことを犬のせいにしていただけだと気付きました。この頃から麻薬探知犬の仕事が大好きになるとともに、やりがいを感じるようになりました。

問：麻薬探知犬のハンドラー年数と思い出について

答：麻薬探知犬業務は、ハンドラー歴5年、麻薬探知犬とハンドラーを育成するインストラクター歴16年で、合わせて21年間となります。

また、麻薬探知犬業務時代の思い出は、初めて担当したベラ号に対する訓練を行うことによって、ベラ号とともに私も成長することができた2年間の出来事は、今でも鮮明に覚えています。

現在、勤務している門司税関に麻薬探知犬が導入されることとなった平成2年には、ベラ号と一緒に麻薬探知犬を紹介するため山口県の岐山小学校でデモンストレーションをおこなったこともあり、門司税関とも何かしらの縁も感じています。また、ベラ号とともに社会悪物品である大麻草を摘発したこと、ハンドラーから他の部署へ異動となり、ベラ号との別れのときには犬舎で泣いたことも思い出されます。



問：麻薬探知犬業務の魅力について

答：麻薬探知犬業務の魅力は、犬を本気で楽しませる、ワクワクさせることが良い仕事（不正薬物の摘発）に繋がることです。犬はいつもハンドラーを見ているので、形式的な命令や上辺だけの褒め言葉や態度は通用せず、ハンドラーも本気で遊び、本気で楽しまなければなりません。単純な繰り返しではたちまち飽きてしまうので、楽しませるアイデアが浮かばず壁に当たることもありますが、自分が諦めずに色々工夫して訓練（仕事）に取り組んでいけば、必ず応えてくれます。そんなパートナーと一緒に、不正薬物の水際の阻止を目的に仕事をできることが、麻薬探知犬業務の魅力です。



麻薬探知犬の老後

犬の寿命^{じゅみょう}はだいたい 10 歳から 15 歳です。犬の 1 年は人間でいえば 7~8 年といわれています。ですから働けるのは 1~2 歳から 8~9 歳くらいです。麻薬探知犬も現場^{げんば}を離れると多くの場合、犬の好きな方^{もら}に貰われていたり、そうでない場合には、麻薬探知犬訓練センターで余生^{よせいす}を過ごします。朝の散歩^{けんこういじ}や健康維持のための行動はありますが、もう麻薬発見の訓練はありません。

麻薬探知犬訓練センターでは、亡^なくなった麻薬探知犬の供養^{くよう}のため犬魂碑^{けんこんひ}が建てられています。

毎年 11 月 1 日(ワンワン・ワン)に慰霊祭^{いれいさい}を行っています。



第2章 麻薬探知犬の活躍~~~~~



麻薬探知犬として大活躍をしたアル号(写真2頭のうち左)(11.1gを摘発の犬・座談会《151ページ》
さんしょう 引退後 さんしょう さんしょう
参照)は、引退後ふるさと(提供者の家)で昔の仲良しと遊ぶ (ホームページから)



(亡くなった麻薬探知犬を弔う
けんこんひ
犬魂碑。センターにある)



2 麻薬探知犬による成果

麻薬探知犬の出動する場所は、外国から入ってくる貨物があるところはどこでもいきます。空港・海港・外国貨物を置く倉庫(保税地域^{ほぜいちいき}といいます)などです。麻薬はほとんど外国から入ってきます。一旦国内^{いったん}に入ると摘発するのは大変です。外国から日本に入ってくるところで防止^{ぼうし}するのが一番効果的なわけです。麻薬探知犬は麻薬が日本に持ち込まれる現場で活躍し、麻薬が日本に入ってくるのを食い止めるという重要な任務についているのです。

麻薬探知犬の配備^{はいびじょうきょう}状況^{だいきぼ}はだんだんと大規模になり、今では全国の空港や港で麻薬探知犬が活躍しています。

摘発される麻薬の種類[※]は、大麻草・大麻樹脂・あへん^{かくせいざい}・覚醒剤・コカイン・ヘロイン・MDMAなどです。

※ 第5章参照

麻薬探知犬による最近の摘発の数々



大麻樹脂 51g 郵便物のチョコレート箱の中に^{かく}隠す
(スイスから 通常使用回数:510 回分)



大麻草 4.0kg 入国者のキャリーバッグの二重底の中に
隠す (オランダから 通常の使用回数 8,000 回分)



大麻草 9.0kg キャリーバッグの中に小分けして隠す
(オランダから 通常の使用回数：18,000 回分)



大麻樹脂 3.0kg 身辺に巻きつけて隠す
(タイから 通常の使用回数：30,000 回分)

第2章 麻薬探知犬の活躍~~~~~



大麻樹脂 0.3kg 体内に飲み込み隠す

(タイから 通常の使用回数 : 3,000 回分)

(何か
おかしいぞ!)

